

No. 332 発行  
 天理教山口教務支庁  
 〒754-0001  
 山口市小郡上郷1569番地1  
 TEL 083-972-5004  
 FAX 083-972-5003  
 MAIL kyomu@honey.ocn.ne.jp

9月本部お勤め時間

日	朝	夕
1~15	5:45	6:45
16~30	6:00	6:30

はじめのことば

主事 会計

### 毎田考則



七月本部月次祭に、今日から  
 こどもおぢばがえりが始まるん  
 だと思ひながら参拝させて頂い  
 ておりました。そして今から三  
 十年前のこどもおぢばがえりの  
 の出来事を思い出していました。  
 昭和六十二年九月に長男が生  
 まれ、まだ一歳にならないその  
 子連れでのこどもおぢばがえ

りでした。その頃は所属の布教  
 所長さんが人集めに奔走して下  
 さり、マイクロバスでのおぢば  
 帰り。出発前の七月下旬、その  
 長男が熱を出してヒューヒュー言っ  
 ている。市内の小児科を受診す  
 ると、夏風邪との診断。妻は一  
 応看護師の免許を持っている。  
 長男の様子を見ていて、普通の  
 風邪じゃないと妻は言う。抱き  
 かかえると首をだらりと垂らす  
 ことなく、一歳に満たない赤ち  
 ゃんが頭を持ち上げてくる。項  
 部硬直というらしいのですが、  
 この状態は髄膜炎の可能性があ  
 ると妻の弁。しかしお医者さん  
 は風邪との診断。その子連れ  
 て参加することに。

おぢば滞在中も熱が下がらず  
 悪化の方向へ。長男は布教所の  
 奥さんに様子を見て頂きながら、  
 私と妻は他の子達と共に行事に  
 参加。  
 明日は山口へ帰る日。熱も続  
 き、水分も取れないので、どう  
 でもという事で憩いの家を受診。  
 妻より連絡があつて即刻入院と  
 の事。妻の言っていた通り髄膜  
 炎との診断でした。子どもさん  
 を連れて帰られるのなら命の保  
 証はしませんとお医者さんの  
 言葉に従い、長男と妻を残して  
 教会に帰る。父である会長が、  
 その当時憩いの家で事情部講師  
 としてつとめており、八月の勤  
 務中毎日おさづけの取次ぎに部

屋へ足を運んで頂いた。治療の  
 おかげで症状も回復に向い、八  
 月のおぢば帰りに合わせて退院  
 し、教会に戻る。  
 数日後、紹介状を持って山口  
 の日赤病院に診察へ。脳のCT  
 画像を見ると一部へこんでいる  
 ように見える。お医者さんから  
 頭脳障害か運動障害が残るでし  
 ようと言われた。  
 その後、障害が発症すること  
 もなく、小学校、中学校、高校  
 と進んでくれて、高校時代は少  
 林寺拳法部員として三年連続全  
 国大会に出場することもできま  
 した。就職し、結婚して子ども  
 も三人授かり、休日には一家で  
 教会の祭典をつとめてくれてい  
 ます。  
 その孫を連れて近年はこども  
 おぢばがえりに参加させて頂い  
 ています。もちろん今年も参加  
 させて頂きました。あの時こど  
 もおぢばがえりに連れて行かな  
 かったら、長男の今はなかつた

修理巡教について 後藤成実先生 9月御巡教日程【宇部支部】

13日 (木)			廣沖 分 14:00~	宇部 分 15:30~
14日 (金)	吉厚 分 9:00~	叶美 分 10:45~	吉之宇部 分 14:00~	宇部港 分 15:30~
15日 (土)	福周江 分 9:00~	宇中 分 10:45~		

かもしれない。そう思うとおぢばがえりの尊さを改めて思い返した今年の夏でした。発熱とおぢば帰り、タイミングというのか、あの時妻と長男を教会に残してこどもおぢばがえりに参加していたら・・・本当におぢばは有難いところです。命の源と確信する次第です。

道の教職員の集い

第四十二回

総会及び研修会

山口教区道の教職員の集いは、六月十六日教務支庁において第四十二回総会及び研修会を開催した。総会には、現職・OB会員七名、教職員の集い担当者六名の計十三名が参加した。また午後の研修会には十四名が参加した。

総会においては、昨年度の活動・会計について報告後、今年度の活動計画、予算について提案があり承認された。また昨秋に開催し、好評であった「おぢば帰りと京都の紅葉を訪ねる会」を今年も十一月に開催することとなった。

午後の研修会では、道の教職員の集い相談役で天理図書館天



理教文献室室長の早田一郎先生に講話を頂いた。先生は現在、天理大学で教鞭も執られている。講話では、宗教の存在価値について即ち、何のために信仰があるのかを考えると救済を忘れた教団は宗教ではない。言い換えると布教をしない教団は宗教ではないと話された。

神様によって創られた人間は陽気ぐらしをするために生まれた。神様は陽気ぐらしをさせるために必要で十分な条件を満たして下さっている。教祖にた

すけられた人がお礼に来た時、

教祖は人をたすけなさいと。それが陽気ぐらしへの道だと。明治二十年代のおたすけ（信仰初代の人達）は、ほとんどが身上たすけであった。現在は医療の向上でかなりの身上がたすかるようになった。しかし、「医者の手余り神がたすける」の言葉がある。医者の手余りとは医学ではたすからない病、医者領域ではない事情である。お道の信仰によってたすけられるのは全ての領域である事が求められる。全ての領域とは身上（病、心の病）と事情（家族問題、夫婦問題、子育て、人間関係、職業、生活苦、貧困、社会問題）である。

天理大学宗教学科では、十数年前から教会訪問を実施し、その教会のおたすけについてお話を伺っている。教会におけるおたすけの例として、幼稚園・保育園の経営、里親・ファミリー

ホーム、障害者施設、老人介護施設、鼓笛隊・ドッジボール教室、子ども文庫、学習塾・英語教室、育児交流会、こども食堂等がある。

こうしたおたすけを進めていくためには、教会は地域社会と密接につながっていなければならぬ。また、多重債務や無縁社会等現代社会に即したおたすけは、教会長の力では、解決できない問題も多い。こうしたおたすけでは、教会長は行政や弁護士等それぞれの専門家への橋渡し役になること

記・和田章一

# 少年会

## 少年ひのきしん隊本部練成会

今年の山口教区少年ひのきしん隊本部練成会は、隊員二十五名

カウンセラー十二名で「人のためつくすよるこび ひろげよう」を合い言葉に、七月二十四日教務支庁を出発して二十五日より三十一日までの一週間、こどもおぢばがえり会場でお茶接待、おやさどパレード出演等ひのきしんに汗を流し、最高の夏を味わうことが出来ました。

### 【参加隊員の声】

○吉村 理子

(中一、厚狭野支・小野田分) 私は今年初めて、少年ひのきしん隊に参加しました。

事前研修の時は、初めてあう人ばかりだったけど、みんな仲良くしてくれて、とても楽しかったです。最初は、一週間という長い期間で、あまり行きたくないと思っていました。でも事前研修に行ったおかげで、初めからみんなで仲良く話せたり、ゲームをしたりして、すぐに慣れました。

入隊して、初めてひのきしん

をした時は暑すぎて、一週間こ

れが続くのはとてもつらいなと思いました。でもお茶接待ひのきしんは、大きな声で「お茶どうぞ」と言ったり、お茶コールをしたりして、とても楽しかったです。冷たいお茶を飲みにきてくれた人たちから、「おいしかった」や「ありがとう」や「がんばってね」など、いろいろな声をかけてもらって、うれしかったです。

海外交流会では、言葉は話せなかったけど、いろいろな国の人と名刺交換をしたり、写真をとってもらい、楽しい時間でした。



た。

三年生、二年生の方が、私たちを引っばってくれて、いい雰囲気、最後にはお別れするのがさみしくて、ほとんどの人が泣いていました。

来年も参加したいと思いました。

○宮田 明德

(中二、宇部支・大関門分)

今年の少ひは、とても楽しかったです。最後には、笑って泣けるとてもいい少ひでした。二年目でも最初は心配したけど、一日もすれば皆と仲良くワイワイガヤガヤ騒いでもとても楽しかったです。でも行進コンテストに向けての練習は、真面目にやり、ときには怒られたりしたけど、最後には金賞をとり、泣いたりするほど楽しかったです。

僕は、山口教区の代表隊員として、一週間どうなるか不安だったけど、おやじさんや他の先生方や、カウンセラーさんに支



えられ、無事に代表隊員として終えることが出来て良かったと思います。他には一班の副班長として、行進コンテストや班をまとめるといった仕事もあったけど、思い返すと自分にもっと副班長として出来ることがあったのではないのかと考えてしまいます。でも過ぎたことを考えても仕方ないので、来年に繋げていきたいと思います。解散式では泣かないと宣言して、一番始めに泣きだした僕は、匠、新、ときお、とも、達にとっても感謝しています。匠に関しては、二年間一班の班長として、楽しませてくれたことに感謝しています。その匠、新、僕の三人が、最後の四日間連続で泣き続けて、目がパンパンに腫れるほど泣きま

した。

今年は、体育館シューズを忘れたので、シューズを貸してくれたり、そして、行進のダメなところを、指摘してくれた、カウンスラーさんにとっても感謝しています。カウンスラーさんが居なかったら、金賞は取れなかったと思うし、一班と二班がこんなに、まとまることもなかったと思います。

僕は、来年も、また、行進コンテストで、金賞をとり、そして、おやじ賞もとりたいたいと思



ます。二年連続金賞をとり、最高の、少ひにしたいと思います。本当にありがとうございました。

○岡本 真理子

(中三、柳井支、由美分)

私は、県予選を休んで少ひを選んで良かったと思います。最初はぶち悩んだけど少ひ中におつとめをするとき、「チームの人が日頃の実力がですすように」とお願いしました、そしたら結果チームは勝ちました！だから、お願いをしつかりすると何かが起こります！

私は三年間少ひに来た中で、今年が一番楽しかったです！海外交換会やパレード、お茶接待、履物ひのきしん、行進コンテスト…何もかもが楽しかったけど、一番の喜びはみんなと仲良くなつて友達になれたことです、山口ではなく、高知や青森、沖縄などみんなに「また会おうね！」と言われるのがぶち嬉しかったです！今年の少ひは涙あり笑い

ありのとても思い出に残った最高の少ひでした！

三年生だから少ひが終わりに近ずき「最後の…」が付き男子なんか涙のフライングをしたりと、とても友達思いの人が沢山でした。ほかの県より山口の方がテンションが初日から高くて、ほかの県からも、山口の印象が強くなり、山口人気でした。

みんなに白Tシャツにメッセージを貰って、家に帰って見る度に、みんなとの思い出が蘇り、涙が出そうになり、「また、少ひに戻りたい。あのメンバーに会いたい」って思います！帰ってから親や友達などに土産話をする時とても笑顔で自慢できます！



バスで帰る人と残る人の別れの時も沢山の思い出になりました

た！こんな体験をしたのが初めてで、別れをするというのが嫌だ：とまってしまいました。けれど LINE などで、みんなと繋がりがあえるから寂しくは無いけど、なんか寂しいです。毎日楽しくて喉がかわれて：ああ：楽しかったな：また、みんなに会いたい！！

少ひが終わってもいつか、また、どこかで会おうね！少ひ最高！ありがとうございました。

【カウンセラーの声】

○溝部 和樹

(高一、防府支、佐波分)



昨年まで隊員として参加していた私は今年サブカウンセラーとしてつとめさせていただきました。慣れないことばかりで足を引っ張っていました。サ

ブカウンセラーという立場はもつとも隊員に近く接する立場でありながら、あまり隊員との接し方がわからなかった。

ですが今回この経験を生きか、来年こそはもつと考えて行動し、行進や点呼、色んな場面でのアドバイスができるよう、来年もサブカウンセラーをつとめたいと思います。

○眞鍋 萌佳

(よふぼく、宇部支、周海分)

今回私は二年ぶりに少年ひのきしん隊に参加させて頂き、初めてのカウンセラーをさせて頂きました。

私は隊員の経験は無く、二年前にサブカウンセラーとして参加させて頂いたのが初めての少年ひのきしん隊でした。

二年前にカウンセラーを下さっていた先輩方のようにしっかりとしないで！と突っ走りすぎたりしましたが、周りの方々に支えられて私らしく居



ればいいんだと思えました。やっぱり成長できる場だなと思いました。

カウンセラーとして参加させて頂けてすごく良かったです！来年もまた参加させて頂きたいです。

災 救 隊

出 動 報 告

西日本を中心に、六月二十八日から七月八日にかけて記録的な大雨となり、広範囲に甚大な

被害をもたらした「平成三十年七月豪雨」。十一府県に「大雨特別警報」が発表され、各地で土砂災害や河川の氾濫、浸水被害などが相次いだ。

山口教区災救隊（山瀬文男隊長）は、岩国市社協から要請を受け、七月十日から二十日まで岩国市の由宇町二件、周東町一件の現場へ出動。十日間で延べ百六十一名の隊員が、民家周辺に堆積した土砂の撤去作業を行った。

災救隊が入った地域は、市街地から離れた山中にあり、道幅が狭くて重機が入れない地域であった。隊員たちはスコップや鍬などを駆使し、文字通り人海戦術で民家の土砂を撤去し、「ここまでして下さるとは：」と涙ながらにお礼の言葉を頂いた。

また、八月十四日から十七日まで、本部災救隊からの要請を受け、奈良、兵庫教区災救隊と同じく第三次隊として延べ三十



五名が広島教区へ出動。広島市南区似島、坂町で救援活動を行った。  
 山口教区災救援隊は広島港からフェリーで二十分かかる似島（にのしま）へ出動したが、その現場は軽トラックも入ることができない幅 1m の家の間を歩いて登る現場であった。  
 現地では、被災から一か月が経っていたが、島までボランティアに来て下さる人数が限られ、当初災救援隊の活動も不安な眼差しで見えられたそうだが、第

一次隊により倒壊家屋が残った民家と切り離されると、島民はこれで何とかなると祝杯を上げたとの話を聞かせて頂いた。  
 我々、山口教区災救援隊が第三次隊に出動した際には、休憩毎に飲み物が振舞われ、フェリーに乗り込む時や町中を歩いて現場に向かう際、何度も温かい声援を頂いた。本当に災救援隊によるたすけあいの精神により、被災地に希望を持って頂くことができましたのではないかと自負しております。

今後も、一れつ兄弟の自覚に立ち、真実をもつて救援活動にあたらせてもらいたいと思えます。  
 尚、今回の出動は、教区の災害救援基金を頂いて出動いたしました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

山口教区災救援隊

副隊長 岩田直己

平成 30 年 7 月 豪 雨 災 害 出 動 者 名 簿

岩国市由宇町、周東町

第3次隊 広島市南区似島

岩国支部	弘長誠 弘長祥	岩竹証平	清水幸範	村田安朗	岩竹知一
周東支部	白石善徳				
大島支部	沖廣正義				
柳井支部	岡本満教 深谷陸雄	角井十夢	川端真英	新本徳幸	相知美智宣
熊毛支部	磯嶋力 田邑靖	末弘兼生 中山慎三	篠田善臨 末弘健司	森田孝行	森田誠
周徳支部	原田晃雄	藤本知洋			
防府支部	牛見肇宏 牛見真	吉村公亨 吉村辰徳	松本吉郎 岩田光弘	大形知道 吉本広一	岩田教宏
北山口支部	岩田直己 田崎元明	五十部寛 井上修次郎	恒富道伸 迫野篤	山瀬文信 堀田正信	谷口冬馬 田崎治
山口支部	小林善太郎 秋本和幸 迫野由美	迫野信彦 井上史朗	松永繁樹 山下悟	立岩大 山下伸道	米島真一 福江弘一
宇部支部	伊藤俊一 徳田誠	豆田隆博	藤原四郎	向上正	向上正道
厚狭野支部	川上正弘	金子慶一	花田善助	花田教子	花田福陽
萩支部	岡村正実 毎田孝則	矢野英明 矢野誠二	伊関経章 徳見典真	下藤健太	吉沢豊
下関支部	中村杜次郎	米倉伸一郎	近藤栄一	林豊作	西田征広

	末弘健司			
	藤本知洋	穠山清太郎		
	牛見肇宏	岩田光弘		
	岩田直己	井上修次郎	岡本道則	堀田正信
	小林善太郎	迫野信彦	迫野真次	
	伊藤俊一			

7月10日～20日延べ出動人数 161名

8月14日～17日 14名出動

※この名簿は災救援隊参加受付表より作成したものです。漏れ落ちがありましたらお知らせ下さい。

# 教会事情

○任命願

西下関分教会

(旧) 安藤 初枝

(新) 板井 邦浩



(下関支部・堺)

奉告祭 立教百八十一年十月十四日

○任命願

萩松分教会

(新) 濱崎 竹美



(宇部支部・奈良)

奉告祭 立教百八十一年十月十四日

○神殿建築及附属建物増築願  
官市分教会

(防府支部・防府)

奉告祭 立教百八十二年六月十六日

## 各部、各会、各支部の広報担当の方へ

行事の予定、また掲載してほしい記事などがありましたら、教務支庁へ電話、FAX、もしくはメールで情報をお寄せ下さい。

・電話 083-972-5004

・FAX 083-972-5003

・メール [kyomu@honey.ocn.ne.jp](mailto:kyomu@honey.ocn.ne.jp)

## 陽気ぐらしの種を育て みんなであくわくしよう!!

参加費  
大人 1000 円  
小学生 500 円  
未就学児無料

期日  
11 月 4 日 (日)  
9:30 ~ 15:00 頃

対象  
後継者講習会受講者  
※ 家族参加可・託児あり

会場  
天理教  
山口教務支庁

携行品  
ハッピー・筆記具

内容  
グループワーク・講話・  
わくわくフェスタ(昼食)など

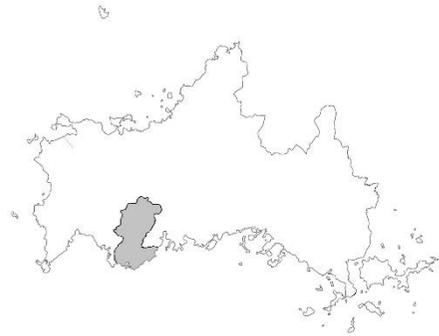
## 後継者講習会 受講者の集い

主催 山口教区 きびる会

お問い合わせ 天理教山口教務支庁 Tel 083-972-5004



**@Yamaguchi**  
**Kibiru**  
**宇部支部**



平成 16 年、宇部市と厚狭郡楠町との合併により現在の宇部市となりました。宇部支部はこの合併前の旧宇部市が管内となります。教会は 39ヶ所。支部活動の上ではほど良い教会数で、個性的な会長さん方が力を寄せ合い中心となって、支部教友の皆さまと一緒に様々な活動に取り組んでいます。一見活発に見える宇部支部ですが、実は地味にコツコツと、継続を大切にしています。ということで支部独自の活動の一部をご紹介します。



**【婦人会による活動】**

毎月一回、山口宇部医療センターの緩和ケアの花壇、玄関前の除草ひのきしんをしています。雨天時は病棟ロビーの拭き掃除、窓拭きをしています。小さい子供さんもお母さんのそばで、日向ぼっこをしたり、小さい手で熊手をかいたり、草を運んでくれたりします。



**【青年会による活動】**

青年会本部による提唱が終了したハートクリーンキャンペーン。長年、支部青年会の中心的活動だった為、見直しを図り、ハートクリーン活動を改めてスタート。活動後有志による神名流しも行っています。また、青年会創立百周年に向けて、陽気ぐらしの実践をアピールする陽気ぐらしPRプロジェクトを推し進めています。



**【少年会による活動】**

春の「教祖ご誕生まつり」と秋の「丸山ダム清掃ひのきしん」。おつとめ、ひのきしん、そしてお楽しみ行事を通して、子供たちが陽気ぐらしを実感できる場となるよう心を尽くしてお世話取りに励んでいます。

**【支部報の発行】**

毎月「宇部支部報 きらり宇部」を発行しています。前支部長の時に始まり、11年目に入りました。支部教友の皆さま、また、他支部他教区の先生方にもご寄稿頂き、黙々と地道に文書伝道活動を進めています。